

# 令和6年度 園評価書

園番号 47 園名 高部中央こども園

## I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている、C:あまりできていない、D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
心豊かでたくましい子	「もっとやってみよう」がいっぱい	「やってみたい」「もっとやってみたい」遊びが楽しめている	一人一人の発達や遊びの姿を捉え、興味・関心に合わせて環境の再構成を行ったり、異年齢児や友達の姿を見たりすることで「やってみたい」「もっとやってみたい」の姿が見られ遊びを楽しんでいた	A	A	・子どもがやってみたいと思ったことがすぐにできることが大切。それが満足感や達成感、次への意欲につながっていくのと思う ・自分で遊びを見つける、興味をもった物事にとことん追求していく姿がみられた	・子どもの発達や興味、関心に合わせて環境構成を行っていることで「やりたい」「もっと」を見つけ遊ぶ姿が増えている。遊びが変化した時や子どもの姿に応じて再構成をしていくことで引き続き、子どもの「もっとやってみよう」の姿につなげていきたい ・遊びの幅や工夫をより増やしていくために、来年度は保育教諭自身も教材研究等を行い遊びの引き出しをふやしていく ・相手の思いをより聞けるように保育教諭が話が聞けるような環境や話し方の工夫を意識してみたい
		自分なりに試したり工夫したりして遊んでいる	道具、教材、時間を保障し、廃材や可動遊具の数や量、置き場所等を見直していったことで、さらに自ら考えたり、試したり、工夫して遊んでいた	A	A	・来園する度に環境構成に変化が見られ、職員の努力が感じられる。年齢や発達がおさえられているので、その視点も園説明に入れたらどうか。	
		保育教諭や友達との関わりの中で、自分の思いを伝えたり相手の思いに気付いたりしている	子どものありのままを受け止めていくことで一人一人が保育教諭や友達に自分の思いを出したり、相手に伝えたりする姿が見られた。友達同士で思いがぶつかってしまう場面や振り返りの場を大切にすることで相手の思いに気付く機会となっている	A	A	・子どもにはまなざしで寄り添ってもらっていると感じる。「相手の思いに気付く」という所は、保護者の感覚とズレがあるように思う	

## II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	一人一人の発達や経験の差を理解し、個々に応じた関わりや援助を行っている	引き続き、毎日の昼の打ち合わせや職員会議、会話の中で子どもの様子を伝え合うことで、子どもの発達や園での姿を共有することが出来ている。また、困ったことや悩みを職員が集まる場で共有して一緒に考えることで、クラスを越えて情報共有が出来ており、個々に応じた関わりや援助ができています	A	A	・職員の姿から、縦・横の関係が上手くできていると思う ・子どもも職員も笑顔あふれる園舎・園庭 自分のことについてよく話す。経験・体験の充実が言葉の獲得を促している ・子ども達の活発に興味を示している姿を受けとめて導いている様子に感銘を受けた	・引き続き昼打ちや会議で伝え合うことを大切に、子どもの発達や姿を捉え、一人一人に合った関わりや支援を行っていく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	一人一人の生活リズムを大切にし、安心して過ごせるようにしている	保護者とコドモンの連絡や登降園時に子どもの様子を伝え合うことで、一人一人の生活リズムやその日の体調を把握し、職員間で共有することができ、個に合わせた遊びや休息を取り入れ安心して過ごせるようにしている	A	A	・遊びだけでなく、自分のタイミングで水を飲める等生活が楽しいものになっていると思う	・職員のスフトによって、朝の受け入れや帰りの引き渡しに別の職員になることもあるが、報告連絡相談をし、連携を取りながら一人一人が安心して過ごせるようにしていく
	(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもの思いを実現できる環境を整えている	乳児、幼児会議、虹会、昼の打ち合わせ等で共有し、季節に合わせた遊びや廃材、自然物を活用し、園庭や室内の環境構成を行っている。また、子どもと一緒に素材や教材等を用意し子どものやりたい思いを実現できる環境を整えている	A	A	・「環境」という広い項目の中で、物的だけでなく今の高部中央で考え大切にしたい視点を確認したらどうか ・子どもがのびのび遊べる→友達の姿がモデルになる→まねしてみたい、やってみたいにつながっている	・子どもの「やりたい」という思いを探りながら、子どもと一緒に考えながら環境準備をしてきた。遊び環境について、集団として捉えた遊びを考えがちだったが、一人一人の思いや遊びに視点を置き考えていきたい
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	自分の身を守る事が出来るように様々な災害を見据えた訓練を行っている	様々な場面を想定した訓練を行ってきたことで、子ども達も状況に合わせた避難の仕方や知識が身についた。真剣に取り組む姿があった	A	A		・今後も様々な災害を想定して訓練を行い、積み重ねていく中で自分を守る方法を身に付ける。また職員は自身で判断し行動できるように取り組んでいきたい
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	食育活動を通して楽しく食べるように関わっている	毎日食材を見たり触れたりしながら関心を高めた。毎月の食育活動に外部の方を招いたり、野菜の生長やクッキング、食べる時の雰囲気作りをすることで楽しく食べるよう関わることができた	A	A	・その日に食べたものを掲示していて、子どもと一緒に見るのが楽しみのになっている	・今年度は猛暑で野菜の生長があまり良くなかったが、種や苗から野菜が育つ過程やクッキングを通して友達と楽しく食べることを味わえた。また、かみかみ食育など外部の方との食育活動も取り入れ食への関心を深めた
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	職員間の情報共有や協力体制をつくり、個々の支援計画に沿った支援ができています	今年度の子どもの姿に合わせてばんだの会の回数や時間、内容を工夫して進め、個々に沿った支援ができています。会議には担当職員以外も参加できるようにしているが、一部の職員のみになっているため、より多くの職員が参加することでもっと支援の手立てが深まり、支援につなげられるようにしていきたい	B	B	・担当職員にまかせがちになるので、どのように自分事として捉えられるかに期待したい ・事故・ケガのないように職員の情報共有で支援をしていってほしい	・限られた時間内での会議や研修なので、更に工夫しながら実施し、職員一人一人が学ぶ意識をもち、自分事として捉え支援体制を深めていく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	職員が自分の分掌の役割を自覚し、チームで協力し合って取り組んでいる	各分掌が中心となりながら園全体で話し合いや必要に応じて見直しを行っている。正規職員だけでなくパート職員にも声をかけ、仕事を割り振り分担しながら、分掌担当以外でも一人一人が責任を持って取り組んでいる	A	A	・貸し出し絵本を時々利用しているが、借りるメンバーが固定されてしまっているようですごくもったいないと思う。チームワークの良さを活かし、案を出し合い変わってけると良い	・分掌担当が企画し、役割を分担しながらチームで取り組むことができている。引き続き声を掛け合い取り組んでいく
6 研 修	(1)研修体制の充実	園内研修を行い、研修テーマに沿った手立てや発達についての学びを保育に生かしている	事前・事後研修を通してねらいや学びをその都度園全体で確認し、職員一人一人が研修に向かう姿勢が高まった。研修では経験年数別、職種別等グループ分けを工夫したり、司会、書記等全職員が様々な役を経験することで一人一人が意識し研修の学びを保育に活かすことができた	A	A	・先生方の研修がより良く活かされていることが伝わる。引き続き努力をお願いします	・今後も司会や書記、プレゼン等を決めた人がやるのではなく、職員の自主性を大事にしながら、参加の姿勢や学びの意識を高めていきたい
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	季節に合った遊びや発達に必要な体験が得られるように安全・安心な環境が整えられている	園外保育では学期ごとに下見を行い安全確認を行っている。自然豊かな地域を活かし、園外に出掛け季節ごとの自然を感じたり、園内を装飾したりしてその時期に合った体験をしている。しかし、日々の保育の中で気付いたヒヤリハットを発信することに対する意識の差がまだあるため、一人一人が伝え合いさらに安全に努めていきたい	B	B	・どんな場所でヒヤリがあるのか、わかりやすい所ばかりではないと思う。職員同士の発信があると良い ・安全面については項目(2)に移し、具体的な環境構成の振り返りや改善についての視点を入れたらどうか?	・評議員からの意見を参考にヒヤリハットは上記項目に入れていく。指標と内容の捉え方を検討していく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	子どもの様子や情報を発信し、保護者と一緒に子育てを楽しんでいる	その日の様子や子どもの成長などをボードやお便り、送迎時に意識して発信した。幼児は面談、乳児は連絡ノートで個別に伝え子育ての喜びや不安を受け止めながら、保護者と一緒に子育てを楽しんでいる	A	A	・コドモンでの発信は写真をもとに子どもとの園での会話が家で盛り上がり、とても良いと思う。 ・タブレットを肩からさげ、重たそうだが遊びながら写真をとることが一番保護者が見やすいと思う	・コドモンを活用し更に子どもの育ちを保護者にわかりやすく発信し、子育てを共に楽しんでいけるようにする
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	近隣園や学校の職員と情報交換を行い、園児や児童との交流が行われている	近隣園や小学校との交流があり、子ども同士が関わったり、小学生が来園したりする場がある。同じ小学校へ行く近隣園の友達に親しみをもち、子ども達は就学に向けて期待がもてている。2月に小学校体験を計画し児童との交流を図る	A	A	・先生に相談しやすい雰囲気。日々の積み重ねが良いと思う ・活発に交流がなされ、子どもの発達にとっても良い効果が表れていると感じる ・高部地区の地域性、強みを生かす。人と関わることで、心の温かさを感じる経験ができると良い	・引き続き近隣園や学校との職員の連携を高め、子どもたち同士の関わりを深めていく
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	様々な人との交流を通し、こども園だけではできない体験をしている	S型サービスではお年寄りの方と、おしゃべりサロンでは未就園児や保護者と、散歩時には挨拶を交わし地域の方と触れ合い、園のことを知ってもらう機会となりつながりができた。畑を借りて野菜を作る経験や外国籍の方のサンタクロースと触れ合いファンタジーの世界を味わうことができた	A	A	・子育て不安の家庭に門戸を広くという視点は現状ではないのか	・地域の中で育つもの、ことが多いので、園からの発信を今後も意識し体験を通して子ども達の育ちに活かしていきたい